

## 愚溪寺の景観は

### 世界に誇れる御膏の宝

御膏には東濃地方全体の文化的・歴史的財産として、願興寺とともに愚溪寺といつ古いお寺があります。

この寺は世界遺産にも指定されている竜安寺の石庭の元ともなった庭で有名で、180年にもならんとする建物はたまたまいかその庭にふさわしく、今も御膏富士の麓に凛々しくしっかりと立っています。

ところが、それを無残にも取り壊して、なんと5億5千万以上の大金\*を掛けて大型のピカピカのものに建て替えようといつんでもない計画が、檀家に口うるさい説明も民主的な合意もなく進んでいます！

本当に老朽化して危うい状態なのか、建て替えが不可欠なのか専門的な調査も全くありません！ 後に

なつて地震のことをお寺は言うようになって来ますが、それなら耐震補強のためにどのようなことが必要で、いくらかかるかなどの専門的な調査をしてから、事業を考えればいいはずですよ。

\* そんな金があったら、傷みの激しい願興寺・こちらには国宝級のものが多くあり御膏の観光スポットとして重要名所の修復に回すべきといつ声さえあります。

# 愚溪寺の取り壊し 愚かな選択？ 末代までの恥にならないか？、

住職にはずで質問状が出され、檀家全体の説明会を求められています。一ヶ月以上も経つた今も何の回答もありません！  
愚溪寺の取り壊し、建て替えは、檀家だけの問題ではなく、御膏だけの問題でもありません！

今日、全国各地で、信心とは関係なく、お寺の改築が続いており、もの言わぬ善良なお年寄りのお金がつまき巻き上げられ、無駄な工事がされているようです。こつした動きの背後を少しでも覗くと、実に多くの問題が繋がったり、関つたりしていることがわかります。

そもそもこの建て替えの話が具体的に変わったのは、「山をゴルフ場に売った金があるから、

その上この4月からペイオフだし、建築資材も値がりするかもしれないし、とにかく古いのは壊そう」といつことからです。

ところが現在の世界では、旧いものができるだけ大切にしようといつのが常識になりつつあります。京都でも今、古い町並みが急速に消えて行くのに町中が危機感を覚え、町の景観をなんとか守ろうといつ市民全体を巻き込んだ大きな運動が始まっています。それはこの町が観光産業に依存しているといつだけでなく、世界的な「再利用・リサイクル運動」とつながつてもいるのです。

今日、日本の社会にあらゆる領域において、これまでのやり方が頭打ちになつて全てを見直されなくてはならない事態になつてきています。必要もない公共工事に無駄な金を使い、肝心かなめのところには金も支援も回らないことが、いたるところで大問題になつて、たとえ工事がはじまつても、凍結になる事業もあちこちで出てきています。大量生産・大量消費、大量破棄に頼つた生活そのものを根本的に

# 誰のため、何のため、 建て替えるのか？

変えていかななくては、人類そのものが存続していけなくなる。こつしたことが、誰の目にも明白になつてきたからです。

\* それに反対する総代長を首にして、売却は強行されたと聞きます。

「もつたない」「こそ

新しい文化の創造だ！

今、愛・地球博を盛り上げようと「もつたない」を環境保護・再利用・リサイクル運動のための世界の合言葉としようといつ一大キャンペーンが始まるつとしています。日本の「もつたない」がマタイさん（クマの環境活動家でノーベル平和賞受賞者）によって再発見されたように、日本の誇るべき景観や精神のなかに、国際的な視野から、再発見され、新しい文化の創造に貢献するものがあると思ひます。

その運動を足元から始めようではありませんか？ 御膏の名刹愚溪寺の景観を守ることは、小さなことかもしれませんが、考えてみると、そこから各自が気づき考えべき美に多くの素材が次々と出てきま

すし、自然環境とのかかわりのなかで、生活を見直し、家庭が変わる力として非常に非常に大きな力を潜めているテーマであるに違いないのです。

問題をさらに深くさぐる。民は愚かに保て

文化的装置として、日本の多くのお寺は、江戸時代からの「民は寄りむべし、知らしむべからず」「民は愚かに保て」といつ民衆統治の大原則を今も伝統として見事に守り続けています。そうしたこと、人々のなかに「見ざる、聞かざる、言わざる」の精神を温存させるのに大きな役割を果たしているとしたら、それは今日の日本の若者が、一見華やかでも底では深く「無気力」に蝕まれていたり、私達や自然や歴史を大切にしている気持ち失つてしまつていたりする事実と無関係ではあり得ないでしょう。それはまた、物質的には一応「経済大国」になつていても、人々の生活に潤いが欠け、「こころの貧しさ」がいよいよ深刻になつて来ている現状と無関係ではあり得ないでしょう。

それは、今日の次々と起る無気味な事件や事故にもこつしたことは表現されている気がしてなりません。

この大改築工事は、開山した義玄禅師の550年法要の一大儀式を催すことがひとつの目になっています。それならば、日本の仏教の本来のすばらしさを取り戻すべく、それはとりもなおさず日本人の活力を取り戻すことにもつながりましょう。仏教や寺院を根本的に見直し考え直すことができる大切な機会、それこそ500年1度のチャンス！ にしたらいいのではないのでしょうか？

現在の愚溪寺石庭



東濃の文化・歴史遺産を考える会

E-Mail iloverekisibunnka@yahoo.co.jp

TEL 090 4205 7895

080 5002 1378